

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋作りの2ユニットで、渡り廊下でつながっており、自由に行き来出来ます 北側の居室でも光が入るように天窓があり、明るいです</li> <li>・畑や花壇があり季節ごとに野菜や花を一緒に育てています</li> <li>・母体は芥見診療所です 訪問診療があり、医療と連携が整っています</li> <li>・併設の行事に参加し、入居前からの馴染みの関係の維持や、大浴場での入浴を楽しんでいただけるよう心掛けています</li> <li>・近くのスーパーやドラッグストア、喫茶店へ行くなど外出支援を個別で行っています</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、理念である「利用者本位、笑顔、優しい心、地域との交流」を常に意識し、決められた事だけを行うのではなく、利用者の自己決定を受け止め、笑顔で暮らせるよう支援に取り組んでいる。母体法人が診療所であり、24時間連携しながら、利用者と家族の安心につなげている。また、新型コロナウイルス感染予防対策として、職員全員で防護服着脱練習を行ったり、メンタルケアとして、第三者に相談ができる体制も整えている。家族からは、職員の対応やイベントの企画、手形・足形アートの作品作り等で好評を得ており、更に家族の要望に応えられるよう、現在、利用者と家族のオンライン面会について検討している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の、利用者本位・優しい心・地域の交流を元に介護で情報を共有して実践につなげています	理念を職員室やミーティングルームに掲示し、常に職員の意識化を図り、利用者が、笑顔で安心して暮らせるよう支援している。3ヶ月に一度、法人内の各部署で目標を立てる時も、理念に沿った目標を立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を回覧版で把握しています	地域住民と挨拶を交わしたり、野菜の差入れを受けるなど、日常的な交流がある。自治会行事を回覧版で把握し、春まつりでは神輿がホームに立ち寄るなど、地域の一員としてのつながりを持っている。現在は、コロナ禍ということもあり、地域との関わりを自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催のステップアップ研修の受け入れをしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの様子や、活動内容、事故事例の報告をしています 家族様から何かありましたら意見交換しています	運営推進会議を2ヶ月に一度、行政担当者、地域代表、家族代表が参加し、会議と併せて夏まつりや外出などの行事を実施するなど、多くの家族が参加しやすいよう工夫している。現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、職員のみで開催とし、関係者に議事録をFAXで送信し、家族全員に郵送をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき報告しています。出席時には助言をいただき質の向上に努力しています。	行政から、研修案内を受けたり、新型コロナに関する情報を得ている。また、地域包括支援センター主催の「ネットワーク連携会議」に参加し、認知症サポーターやステップアップ研修の実習受け入れや、ほっとカフェについて話し合いを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています 対象となる方がみえたら具体例をあげ会議や、申し送りにて話し合いをしています 日中は施錠せず自由に出入り出来ます	身体拘束等適正化委員会は、3ヶ月に一度開催し、指針も整備している。スピーチロック研修や、半年に一度のチェックリストを用いた自己点検も行っている。また、身体拘束疑似体験を行うことで、利用者の思いを知り、弊害についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束研修にて虐待防止関連法について学び防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議にて伝達する事で、理解や知識を付けるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や説明書に基づき、利用者、家族に詳しく説明し、疑問等に関しては十分な説明をし理解して頂いています 後日何か分からない事があれば都度対応しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や、家族の要望はいつでも話を傾聴しています	日頃から、家族と世間話ができる関係作り心がけ、玄関に意見箱を設置している。面会時や行事の際にも、家族から意見や要望を聞いている。現在は、新型コロナ感染予防の為、面会制限を行っており、法人でリモート面会について検討を行ない、実現に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から代表と連絡を取り、意見や提案を聞いています	管理者は、日頃から職員と共に現場に入っている。研修受講や希望の勤務時間帯、子ども同伴での勤務等、職員の様々な要望を把握し、職場環境、条件の整備に取り組んでいる。月に一度、外部講師を招き、職員がメンタルケアを受けられる機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の事情を把握し、各自が向上できるよう研修への参加も進めていますが、今年はコロナの影響で研修は参加出来ていません 職員の考えを聞きやりがいのある職場環境に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の心のケアとして、外部の接遇、マナーの先生に入って頂き相談する時間があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区のほっとメイト会に参加し、情報収集や意見交換、相談をしながらサービス向上につながるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時に要望を伺います 身内の方の遺骨又は信仰している宗教の為の仏壇や新聞など要望を聞き、利用者様、家族様が安心できるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じように要望を聞き、コロナで面会が出来ない為、電話、新聞等で状況の報告しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約時や入居時に話をする中で家族の話を聞き出来る支援を検討し話をしています 病院受診の付添いなど出来ない方は、ヘルプステーションのサービスの紹介をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備や、お盆拭き、食器洗い、洗濯干しや洗濯たたみ等、職員と一緒に取り組み生活しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新聞や電話で様子を伝え、家族にしか出来ない事は協力して頂いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナで面会が出来なくなり、以前のように外出は出来なくなりましたが、まだ玄関外での面会が出来た際は、職員が間に入り積極的に話をするようにしていました	現在は、コロナ禍にあり、面会は自粛中であるが、利用者の知人が訪ねて来た時は、ガラス越しに面会できるよう工夫するなど、馴染みの関係継続を支援している。また、以前は馴染みの喫茶店に行っていたが、今は、ホームでドリッブコーヒーを立て、利用者が香りや味を楽しめるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で利用者の意向を考慮し、座席の配置を考えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、書類等で訪問される方も見えるので、お会いした際は退居後の様子を伺い必要に応じて支援するようにしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合わせた暮らし方を考え、談話室で過ごす方、居室で過ごす方、本人本位に日々、検討しています	職員は、常に「利用者本位」の支援に努め、利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう取り組んでいる。それぞれの思いや希望を把握しながら、生活記録、申し送りノートで情報を共有し、意思表示が困難な人には必ず声をかけ、表情やしぐさから思いを汲み取るなど、全職員で統一したケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの生活歴や性格を聞き、職員が把握できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録にて職員が共有し合い現状把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にてモニタリングをし、課題の相談をしています それぞれの意見を参考にしています	職員会議で利用者の状態や様子について話し合い、医師の意見や生活記録を参考に、介護計画を作成している。家族からも、面会時に話を聞き、利用者の状態に合った計画を立てている。計画のサービス実施期間更新前であっても、身体機能低下や急変に伴い、柔軟に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン経過記録、生活記録を参考にし、情報を共有しながら各棟会議で話し合いを設け介護計画の見直しをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族、又職員の要望もあり、現在は特に買物の支援をしています 外に行かなくても出来る事はホームで皆さん楽しんでます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りの散歩は行っていますが昨年の様な地域との交流は持っていません 代わりにホーム内で出来る事を増やし楽しんでいただいています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に外部の受診に関して、かかりつけ医には文書で状態を伝え分かりやすいようにし、適切な医療を受けられるようにしています	利用者希望のかかりつけ医への受診を支援している。整形外科や眼科等への受診も家族の送迎を基本としているが、緊急時や状況によっては、職員が付き添っている。年2回の健康診断時に血液検査を行っているが、それ以外にも、適宜、適切な検査や医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の芥見診療所へは常に状態の連絡をし、指示を頂いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には相談員との連絡を密にし、本人、家族が安心できるような対応をしています 早期退院が出来るよう、医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を頂いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった方は、常に報告をし、今後重度化した場合の対応の仕方、緊急時にはどのようにしたらいいか確認をしています	看取り指針を整備し、看取り介護を実践している。利用者の状態変化があった場合は、医師から家族に説明を行い、同意を得た上で看取り介護計画を立てている。職員は、家族の思いにも寄り添いながら、利用者が心穏やかに看取り期を過ごせるよう、支援に取り組んでいる。	看取り経験が少ない職員には、経験者が看取り教育を行っている。今後は、さらに看取り期の知識を深めるための研修実施と共に、職員の不安を軽減できるよう、メンタルケアにも取り組み、支援の向上に繋げられるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は速やかに主治医に連絡し指示を受けながら対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した訓練を行っています 水害、土砂災害についても避難確保計画をもとに訓練しています	防災訓練は夜間想定を含めて実施し、終了後は職員で反省会を行っている。備蓄品は1週間分を備え、ウォーターサーバーも各棟に設置している。今年は、各種災害に備えて、ビニール袋に米を入れて、ガスコンロで炊き、利用者と一緒におはぎを作る計画を立てている。	防災訓練時に、消防署から暖簾を防災用に取り換える旨、指導を受けている。現在の物は、利用者お気に入りの暖簾と思われるが、家族の協力を得ながら、利用者の安全を第一に、改善に向けて取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々なケアの中で1人1人の生活歴や人格を尊重し、言葉かけの仕方に気をつけています	常に、利用者の人格を尊重した対応と声かけに努め、職員間で情報を共有しながら支援をしている。浴室ドアの前にはカーテンを掛け、中が見えない工夫をしたり、居室前にも暖簾をかけ、プライバシーの確保をしながらも、利用者が行き来しやすい工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを取り信頼関係を築いていく中で、自己決定できない方でも決定できるような声かけの仕方をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	帽子が好きな方は希望されれば室内でも帽子をかぶり、洋服選びや身だしなみについて自己決定が出来るように声かけをしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや簡単な料理、食器洗い、お盆拭き等、利用者と一緒にっており、毎日一緒に行う事で楽しみの一つになっています	食材の宅配サービスを活用し、ホームで採れた野菜や地元の旬の食材も取り入れながら、食事を提供している。誕生日や正月などのイベント食に加え、おやつレクではチョコフォンデュなど、利用者に人気のおやつも提供している。利用者の状態に合った形態での提供で、毎回ほぼ完食できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食事の際のお茶も摂取出来ているか確認しています。ご自分で出来る方は居室に水筒を置き、何時でも飲める状態にしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや、口をゆすいだり、入れ歯をあらったりと、利用者に合った口腔ケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや、時間をみてトイレ誘導をしています 日中は皆さんがトイレ利用できるよう自立に向けた支援をしています	入居前は紙オムツ使用であった利用者が、声掛けや誘導により、トイレでの排泄が可能となり、現在、利用者全員がトイレでの排泄が出来ている。本人の希望で、夜間のみポータブルトイレを使用している人もあるが、紙パンツやパッドは利用者の状態に合わせて、適切な排泄用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に運動、散歩、腹部周りのマッサージをし排泄を促しています 個々に応じて、めかぶなど食べて頂いている方もみえます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に2回入浴出来るよう予定はありますが、汚染の場合や、病院受診、外出等に合わせ何時でも入れるような個々に合った支援をしています	利用者の状態に合わせて、入浴順や曜日など柔軟に対応している。ゆず湯やしょうぶ湯などで、季節を感じられる工夫をしたり、介助時には、歌や会話を楽しみながらの入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声掛けのタイミングや翌日に変更するなどに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活パターンを把握し、一人ひとりが休息し安心できるよう日中横になり休んで頂く方もみえます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認出来るようにしています 薬の準備は訪問診療で話した事を申し送り、また職員2人で名前、薬の確認をし誤薬の防止に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から楽しみ事や役割を見つけその人らしい生活が送れるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常はホームの庭か周辺を散歩しています コロナ感染防止の為、病院以外への外出はできません 代わりにホーム内で楽しんでもらえるよう外出に変わり、おやつレクを増やしながら楽しんで頂いています	利用者の体調に合わせて、ホーム周辺を散歩したり、野菜作りで庭に出ている。恒例行事の花見やいちご狩り、買い物やバイキングなどは、現在、新型コロナ感染予防対策として、自粛中である。代替え支援として、たこ焼きや餃子の皮でピザ、パフェなどを作るおやつレクを実施するなど、利用者の楽しみを増やしている。	



岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの預かりをしていますが、安心される方は家族と相談し、千円程度所持されている方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があった時、電話を掛けれるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に色とりどりの花を植えたり、談話室では不快や混乱が無いよう日々気をつけています 食事以外は固定された場所を作らず、コミュニケーションが取りやすい場所や居心地良く過ごせる場所に移動し過ごしています	毎朝、食堂兼居間の窓を開け、空気の入れ替えをするのが日課となっている。台所からは、調理中の匂いが漂い家庭的な温かさを感じられる。トイレは廊下から見えない位置にあるが、利用者が迷うことなくトイレに行けるよう、目に付きやすい位置に、分かり易く表示するなど、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くで座れるよう配慮しています 食事以外は固定された席は作らず思い思いに過ごせるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々ののれんを掛け、プライバシーを守りながら、でも個別的な居心地の良い空間になるよう使い慣れた物を持ってきていただいています	居室にはベッドが備えられ、テレビや家具を自由に持ち込むことができ、職員と一緒に、配置を工夫しながら、居心地の良い空間を作っている。刺し子や着物の生地で作る利用者や、好みや季節に合わせた暖簾をかけるなど、その人らしい部屋になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないよう家具の配置を工夫し、身体状況に応じて安全に移動ができるよう配慮しています		